

編集にあたって

日本機械学会では、その活動を10年ごとにまとめてきました。今回は、110年目（2007年度）から119年（2016年度）の10年についてまとめました。また、120年といえば、干支の二回りになります。ひとつの区切りとなっているとも考えることができます。

今回は、これまでの10年ごとの記念誌とはすこし項目を変更し、日本機械学会の活動に焦点をあててまとめました。

まず、この10年に会長を務められた方々に、会長をされた時期を中心に、その活動を振り返っていただきました。2007年度に会長を務められました、齋藤忍殿には、大変残念ですがすでにご逝去され、ご執筆いただけませんでした。ここに、あらためて、ご冥福をお祈りさせていただきます。

つぎに、この10年の活動のトピックスをまとめました。その内容としては、機械の日、機械遺産、東日本大震災、学術誌改編、技術ロードマップ、国際交流、LAJ、シニア会、JABEEを取り上げました。ほかにも重要な活動はいくつもあったと思いますが、この10年間で、日本機械学会で行われた主要な活動をご理解いただけるものと思います。

そして、部門、支部の活動をまとめていただきました。この10年間、日本機械学会の活動は、部門、支部を中心に大きな広がりを見せてきましたが、その内容はそれぞれ部門、支部で大きく異なっています。そこで、今回、内容については、それぞれの部門、支部にお任せしました。したがって、それぞれの比較などが難しいところもあるかとは思いますが、それぞれの部門、支部がどのような点を中心に執筆されたかを拝見すると、この10年間でどのように活動されてきたかがわかるように思います。

この10年の間には、2011年3月に発生した東日本大震災など、社会を大きく変えるようなことを経験しました。そのなかで、日本機械学会がどのように活動してきたかを見ていただくことができるのではないかと思います。日本機械学会の今後の活動を考える際の資料として、また、将来、日本機械学会の足跡をたどる際の資料としてお役にたてれば幸いです。

最後になりましたが、本書発刊にあたり、執筆者のみなさまをはじめ、ご協力いただきました多くのみなさまに、心より感謝申し上げます。

創立120周年記念事業委員会「10年のあゆみ編集」小委員会

委員長 植田 利久（慶應義塾大学）

幹事 久保田 裕二（（一社）日本機械学会）

委員 秋葉 敏克（（株）東芝）、中島 求（東京工業大学）

森 昌司（横浜国立大学）、和田 義孝（近畿大学）

2017年9月

一般社団法人 日本機械学会
創立120周年記念事業委員会「10年のあゆみ編集」小委員会
委員長 植田 利久